



大田原市琵琶池中村牧場の水田放牧

水田・里山放牧ニュースレター

創刊号

2003年9月29日発行

発行 水田・里山放牧推進協議会

事務局 畜産草地研究所（那須）

〒329-2793 那須郡西那須野町千本松768

TEL 0287-37-7003 FAX 0287-37-7132

水田・里山放牧推進協議会設立総会開かれる

9月16日に西那須野町の畜産草地研究所（GGホール）で水田・里山放牧推進協議会設立総会が開かれ、下記の申し合わせが行われました。設立総会には、生産者をはじめ、関東農政局、福島県・茨城県・栃木県の関係試験場、栃木県的那須・南那須・塩谷の各農業振興事務所、農協、大田原市、烏山町、中央農業総合研究センター、日本草地畜産種子協会、畜産草地研究所の職員他34名が集まりました。

水田・里山放牧推進協議会申し合わせ（平成15年9月16日）

1. 目的・名称

水田・里山放牧にかかわる情報交換を行い、水田・里山放牧の普及推進及び技術開発の促進を図るため水田・里山放牧推進協議会を設立する。

2. 会員

希望者は事務局に氏名、住所、所属を登録することにより会員となることができる。都合により退会したい時は事務局に連絡することで退会できる。

3. 役員

会長、事務局長、事務局員数名を置く。当面、畜産草地研究所（那須）に事務局を置く。会長は会員の互選により選出し、事務局長及び事務局員は会長が指名する。

4. 主な活動

情報交換会、現地研究会の開催、ニュースレターの発行、HP（ホームページ）の作成、ML（メーリングリスト）の運営、水田・里山放牧に関するマニュアルの作成等

当面、下記の事務局体制で運営することとなりましたのでよろしくお願いします。

水田・里山放牧推進協議会事務局体制（平成15年9月16日現在）

会長 清水矩宏（畜産草地研究所副所長）

事務局長 落合一彦

事務局員 萩野耕司、板野志郎、瀬川 敬、岡田 清、古川 力

会長ご挨拶：最近、北関東においても放牧に関心のある農家が増えております。水田や里山を利用した小規模移動放牧を導入して成功した例も出てきております。

そこで、これらの農家や行政機関、試験研究機関を交えて水田・里山放牧の情報交換を活発に行えるよう、水田・里山放牧推進協議会を立ち上げ、畜産草地研究所が事務局を務めさせていただくことになりました。ぜひ積極的に活用して頂きたいと思っております。

第1回情報交換会

引き続き、第1回情報交換会として、中央農業総合研究センター畜産経営研究室の千田雅之室長による講演「中国中山間地域における里地放牧の展開」が行われました。

中国中山間地域における里地放牧の展開

中央農業総合研究センター畜産経営研究室 千田雅之

1. 農林地管理問題と里地の放牧利用の広がり

中国中山間地域では、米消費の低迷や農業従事者の高齢化等により、営農意欲が低下し耕作放棄された里地が増えている。それとともにイノシシなど野生獣による農作物被害が増加するなど、農林地の荒廃と居住環境の低下が問題になっている。

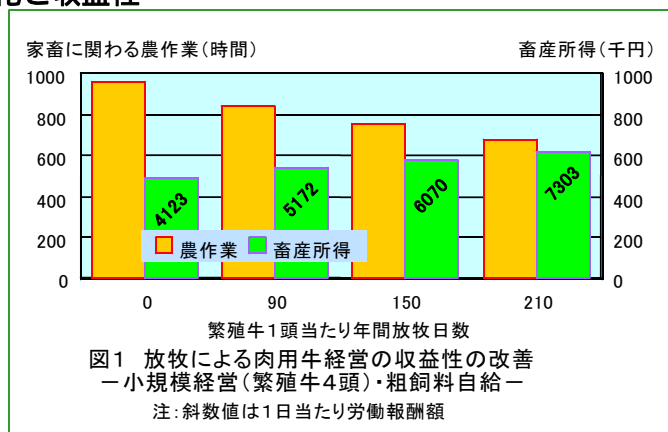
こうした状況の中で近年、電気牧柵と草食家畜の採草能力を活用し、耕作管理が困難な里地を対象に肉用繁殖牛の放牧を行い、農林地と営農環境、農村景観の保全をはかる取り組みが広がりつつある。



写真1 広がる耕作放棄地と獣害防止柵

2. 放牧飼養による肉用牛経営の省力化と収益性

放牧の導入により農作業が軽減され、150日以上放牧により6000円/日を上回る労働報酬が確保される(図1)。中山間地域の肉用牛経営の大半が高齢者であるが、年金や稲作所得に加えて、放牧導入による無理のない家畜飼養により高齢者世帯の農家経済は充足される。



3. 里地放牧の多面的効用

放牧による効果を実施農家に尋ねたところ、畜産面の効果と並び、「放牧地に隣接する田畑のイノシシ被害が減少し安心して農作物を作れるようになった」、「荒地が解消され景観が良くなった」、「幼稚園や小学校等の子供が放牧地に来て励みになった」などの営農や生活社会面に関する効果にも高い回答が寄せられている(図2)。このように、中山間地域における里地の放牧利用は、畜産経営の改善にとどまらず、農林地資源の活用、野生獣の活動牽制による良好な営農環境と農村景観の保全など、多様な効用をもたらしている。

4. 集落ぐるみ放牧

近年、家畜飼養農家のいない集落や農林地の保管理に熱心な住民が、新規に家畜を導入し、粗放的な放牧飼養を行う事例が現れてきている。島根県大田市の小山集落では、荒廃地の解消、果樹園等の下草管理の省力化、イノシシ等の野生獣の牽制、居住環境の改善を図ることを狙いに、集落の有志13名(8戸、結成時すべて無畜農家)が2000年に「放牧の会」を

結成して新たに牛を飼い始め、現在までに耕作放棄地や果樹園など約12ha（地権者16戸）に放牧地を拡げ、5～12頭の繁殖牛と数頭の山羊の放牧を行っている（写真2，3）。「放牧の会」は、複数農家の共同による放牧管理、畜舎なしでの周年放牧飼養、果樹園での放牧など、従来の和牛繁殖経営にはみられない牛飼いに着手している。交替で牛の観察を行うため、毎日、牛の世話に縛られることがなく、個々人の負担が非常に軽い。小山集落では放牧開始後、農家間の会話が増し、地元の保育園児や児童が放牧地にたびたび訪れるなど、牛の鳴き声とともに、少しずつ人のにぎやかさとのどかさが戻りつつある。



写真2 10年以上放棄された元水田に放牧直後の様子
- 耕作放棄地は害虫や野生獣の温床となり、周囲の
営農にも悪影響を及ぼしていた -



写真3 放牧後1年経過した同じ圃場の植生

5. 里地放牧普及のポイント

里地の放牧利用は畜産経営にとっても耕種側の農用地管理としても、経済的に優位であり社会的貢献も認められる。それにもかかわらず、中国地域全体で見ると放牧を行う肉用牛農家は5%にも満たない。

その大きな原因のひとつは従来、ほとんどの農家が繁殖牛を周年舎飼飼養してきたため、**放牧適性（群行動、採草行動など）を欠く牛が多いこと、放牧馴致に数年要すること**などから、放牧可能な繁殖牛が限定されているためである。放牧実施農家においても、夏分娩のため放牧できない、放牧適性が低いといった事情により、**飼養する繁殖牛の2分の1程度しか放牧していない**。春から秋まで200日間も放牧する牛は稀であり、分娩等の関係から平均100日前後に止まっている。

今後、放牧による農林地資源の保全を推進するためには、**繁殖ステージに応じた放牧技術の開発**とともに、前述の集落ぐるみ放牧のように既存の家畜飼養にとられない**新しい飼養形態を創造する**取り組みが重要。

会員募集中！ 協議会では会員を募集中です。会費は無料で、情報交換会へのご案内及びニュースレターの送付を受けられます。事務局までご連絡下さい。

参加者からの報告

[関東農政局生産経営流通部畜産課]

自給飼料増産総合対策事業（拡充）についての説明。自給飼料の生産の拡大、飼料生産からTMRの調整・供給まで行う地域センターの整備、日本型放牧推進が趣旨。併せて、事業内容、事業実施主体、補助率、概算要求額の説明が行われた。

[福島県畜産試験場沼尻支場]

福島県における放牧利用状況と水田・里山放牧の状況について。放牧農家の戸数、草地面積、放牧頭数について報告。県内の耕作放棄地の処理が重要課題となりつつある旨紹介。

[茨城県畜産センター肉用牛研究所]

耕作放棄地での放牧実証試験の経過を報告。畑地放棄地の放牧利用5月末から20日間実施、最終日に外部説明会を開催。水田放棄地の放牧利用8月4日から開始、9月16日現在実施中。両者とも概ね良好な結果を得た。9月末に畑地放棄地の放牧再開を計画。

[栃木県酪農試験場南那須育成牧場]

放牧草地の機能保持に関する技術の開発とシバ草地造成法に関する試験2課題についての経過報告。熟成堆肥と牧草種子の混合散布による簡易草地更新法について説明。

[栃木県塩谷農業振興事務所]

栃木県塩谷地域において実施されている1農家の水田放牧取組状況の報告。現在地域内で放牧希望者が3名いる旨、及び管内公共牧場の放牧頭数の状況について説明。

[栃木県那須農業振興事務所]

栃木県農政部発行の「中山間地域等直接支払制度のあらまし」についての説明。制度の概略、対象地域および農地、農家の活動内容、交付金について掲載されている。

管内で十数戸の農家が放牧を導入。さらに10戸程が導入を希望または検討中。周年放牧の希望がある。年内に放牧研究会を立ち上げる予定。

[栃木県南那須農業振興事務所]

管内の農家の放牧取組状況として5農家の経営方法、放牧管理、費用、土地前歴の説明。また今年度の放牧予定の農家が7戸あることが紹介された。

[日本草地畜産種子協会飼料作物研究所]

シバ型牧草草地造成利用技術確立調査事業による放牧実用性調査の報告。調査牧場は3カ所、内2カ所はシバ型草種による草地造成、1牧場は寒地型牧草による水田放棄地の放牧利用。3牧場ともに雑草化の問題が指摘された。

その他実際に水田放牧にとりくんでいる2戸の農家からの現況説明がありました。今年は雨が多くぬかるみになりがちで、低コストなぬかるみ対策を開発して欲しいとのことでした。

連絡先：栃木県那須郡西那須野町千本松768 畜産草地研究所 研究交流調整官

TEL 0287-37-7003 e-mail: furukawa@affrc.go.jp

ニュースレターの内容を転載する場合は事務局の許可を得てください。